

現場日記 7月1日(火)

■ D滑走路における埋立/棧橋接続部の変位を計測し、構造物が安全であるかを確認します

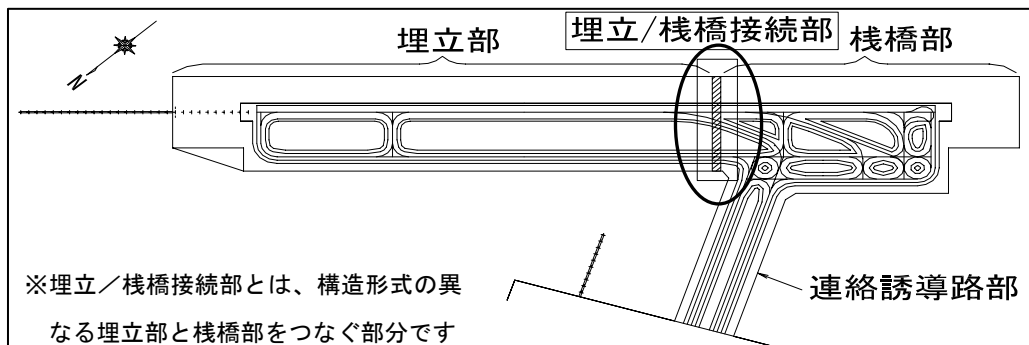


図 1 全体平面図

はじめとした梅雨空の下、今日もD滑走路工事は着々と進められています。

D滑走路の供用後における品質を長期的に確保するためには、初期の状態をしっかりと把握することが大切です。

そのため、埋立/棧橋接続部の鋼管矢板の挙動を把握することを目的に計測機器を取付けています。

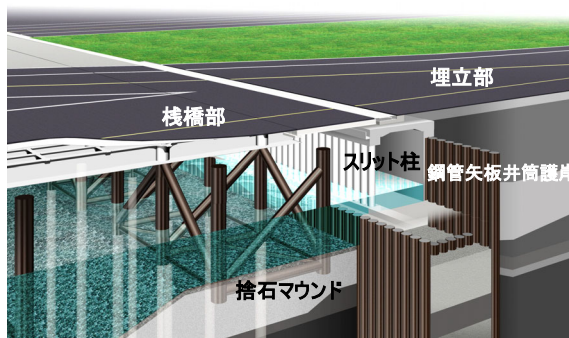


図 2 埋立/棧橋接続部の全体構造

■なぜ計測機器を取付けるかというと・・・

埋立/棧橋接続部は、背面埋立部の土圧を受けるため、棧橋側に水平変位が生じます。そのため、鋼管矢板井筒護岸や、ジャケット棧橋杭に大きな変位が生じていないかを確認します。

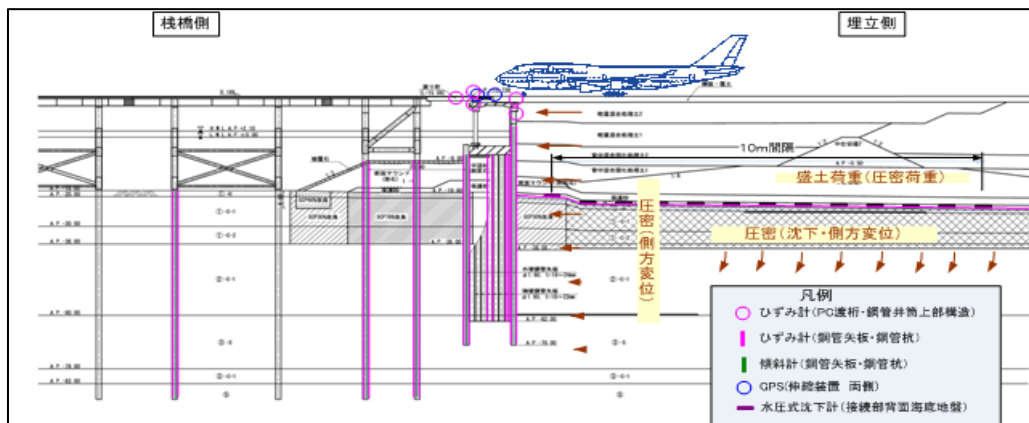


図 3 埋立/棧橋接続部断面

■供用中も構造物の挙動を把握します

埋立／栈橋接続部の水平変位を長期的に測定するため、鋼管矢板に光ファイバセンサと電気式ひずみゲージを取り付けています。（光ファイバセンサは、40年の期待耐用年数があります）



光ファイバセンサを取付ける鋼管矢板です



光ファイバセンサの取付状況です

OTDR計測器です



光ファイバセンサが正常に取り付けられた事を確認するための計測器です

現在、D滑走路建設工事は、埋立部の捨石マウンドの一部が海面上に出現するなど、工事が順調に進められております。今後も、365日24時間休まず工事を進めていきます。

上原 真司